

皆さん、おはようございます。校長の関田です。

今日の修了式は、1・2年生にとっては中学校の第1学年、第2学年の課程の修了を認めるものです。3年生にとっては義務教育である中学校の課程の修了を認めるものです。4年生にとっては国際バカロレア MYP の修了を認定するものです。5年生にとっては…各自で意味付けをしてください。

さて、こうして MOIS の皆さんと一堂に会して対面で修了式を実施するのは、実は昨年度に続き2回目です。初年度から3年間はできませんでした。その原因は言うまでもなく新型コロナです。4年前の3月から新型コロナによって、それまで「当たり前」だと思っていた日常が、実は「当たり前」ではなかったのだということに、私たちは気づかされました。

皆さんは普段の生活をつい「当たり前」だと思っていませんか？ 食事が取れるのは当たり前、健康でいられるのは当たり前、友達と仲良くできるのは当たり前、自宅の屋根の下で安らかに眠れるのは当たり前、いつでも自由に外出できるのは当たり前、などなど。しかし、普段とは異なる困難な状況に置かれると、実はそういったことが必ずしも「当たり前」ではないのだと気づかされます。

「当たり前」ではないことを何と言うか知っていますか？ 「当たり前」の対義語、反対語は何だか分かりますか？ 「当たり前」の対義語、反対語、それは「有り難い」です。そう、お礼の言葉「ありがとう」の語源です。「有り難い」は、そもそも「存在することが困難だ」という意味であり、言い換えると「滅多にない」ということです。「滅多にない」良いことを他人からして貰ったときに返す言葉が「ありがとう」なのです。

普段は「当たり前」だと思っていたことが、困難な状況に陥ると、実は「有り難い」ことだったのだと改めて気づかされます。食べ物に困らず食事が取れて「有り難い」、不慮の事故や病魔に襲われることなく健康でいられて「有り難い」、いじめたりいじめられたりせずに友達と仲良くできて「有り難い」、大地震を恐れず自宅の屋根の下で安らかに眠れて「有り難い」、空からの爆撃を恐れずにいつでも自由に外出できて「有り難い」。

日常生活が実は「有り難い」ことだと分かったら、その日常生活を大切に過ごしたいものです。と、普通の校長先生なら言うでしょうね。私も4年前の修了式ではそうした話をしました。でも、改めて考えました。

日常生活の「当たり前」を、いつでも誰にとっても「当たり前」にできたらいいのに。感謝の気持ちを大切にするだけじゃなく、誰もが不安や恐怖を抱かずに毎日を生きられるようになればいいのに。

アフリカの人々だけじゃなく世界中の誰もが食べ物に困らないようにするには、どうしたらいいんだろう。

不慮の交通事故や新種のウィルスによる病魔に襲われることなく日本中の誰もが健康でいられるようにするには、どうしたらいいんだろう。

いじめたりいじめられたりせずに MOIS の誰もが友達と仲良くできるようにするには、

自分に何ができるんだろう。

能登や三陸のような大地震の被害を少しでも小さくするには、どんな研究を究めればいいのか。

ウクライナやガザ地区での空爆を終わらせ、世界の何処でも人間同士による殺し合いが起こらないようにするには、どうしたらいいんだろう。

「当たり前」だと思っていたことが「有り難い」ことだと気付くのは大事なことです。でも、MOISの皆さんなら、「有り難い」ことを誰にとっても「当たり前」にしてみせたくないか？

何十年、何百年かかるか分からない、自分が生きているうちには成し遂げられないかも知れない、でも世界中の誰もが望むだろう平和で豊かで安らかで幸せな世界に僅かでも近づくように、自分の生き方をコーディネートしてみたくないか？

ちなみに私自身が私なりに考えて「より良い未来をつくる人間の育成」としての「学校教育」を志して、そのために進むべき方向を自分の生き方として想定し、具体的な進路を見定めたのは、1期生諸君にとっての今年、18歳の時です。

さて、明日から10日間の春休みです。4月5日の午後には第6期生である新入生が入学します。8日には皆さん全員が「先輩」です。「後輩」にMOISの精神を伝えてあげましょう。そのためにも、春休み中に皆さんが自分自身の未来をどう考えて新たな年度を迎えるのか期待しています。そして皆さんとの再会を心から楽しみにしています。

2025年3月25日

校長 関田 晃